

下川町は子育てを全力で応援してくれる町！

60%
% off

認定こども園の保育料は
国の基準額の60%OFF。

月額
3,000円

2歳未満の子ども一人につき月額3000円分の商品券を支給。

医療費
0円

0歳から中学生までのお子さんの
医療費も各種予防接種も無料。

18時まで

放課後児童室（小学生～）を無料で
利用できるから、フルタイムの仕事でも安心。

待機児童
0人

認定こども園は待機児童がゼロ。
完全給食だから朝のお弁当作りもナシ。

50%
%補助

不妊治療自己負担分を
町が補助してくれる。

ほぼ
0件

事件・事故はほとんどなく
子育てには抜群の環境。

120,000円

下川商業高校に入学する際は
入学準備金12万円を助成。

小学3年生～

小学3年生～中学生を対象に
週2回程度学習会を無料で実施。

認定こども園「子どものもり」

町営の幼保一元化施設で、1歳～就学前のお子さんを対象に、保護者の就業状況によって短時間保育でも長時間保育でも受け入れが可能です。また、入所前のお子さんも、子育て支援室や一時預かりが利用できます。

森林環境教育（裏面）や食育にも力を入れていて、豊かな人間性を養うことができます。



雪の丘の尻すべりに出発



新緑の森で木登り



町内の農家田植え体験



地元産食材でピザづくり

下川小学校・下川中学校

下川町には町立の小学校・中学校が1校ずつあります。少人数なので、児童生徒一人ひとりに対して細かくわかりやすく教えることができるため、とても良い学習環境です。

小学校では「冬を楽しむ集い」があり、縦割り班でのゲーム集会を満喫したあと、特産品の手延べうどんを使ったPTAによる“ふるさとふるまいうどん”を楽しめます。

中学校では、下川の木材を利用し木炭作りをする「炭焼き集会」があり、その後完成した炭を使い焼肉などを楽しむ「会食集会」があります。

下川商業高等学校

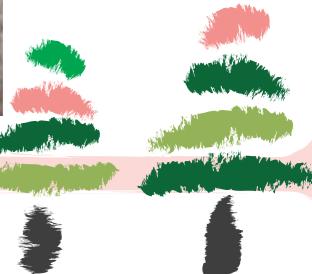
道立の商業学校で、就職や進学に有利な資格を多数取得でき、8年連続進路決定率100%を達成しています。また、町の特産品や町内でとれる山菜を札幌で販売する「販売実習会（3年生行事）」や、町のイベントに積極的に参加するなど、下川町ならではの地域に密着した活動が魅力です。

森の恵みが子育て支援に

このマークがついている支援は、公共施設全体の熱需要の6割を森林バイオマスで賄い、燃料コスト削減に繋がった財源を活用している支援です。森に囲まれる町だからこそできる、森を生かした持続可能な支援です。



◀利用法のない質の低い木材をチップにしてバイオマスボイラーの燃料に使用しています



葛西紀明選手や伊藤有希選手を輩出したスキージャンプのまち、下川町

市街地には町営のスキー場があり、小さいものも含め4つものジャンプ台が用意されています。

そこでは、下川ジャンプ少年団（幼児～中学生）が日々を練習に汗を流しています。全日本のコーチが2名在籍し、トップクラスの指導を受けられることから、下川中学校スキーパー部・下川商業高校スキーパー部には各地からジャンプの為に集まった生徒たちが、寮生活を送りながら技術を磨いています。

